

課題対応取組み一覧表(公表分)

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	活動テーマ
北区	大淀	『地域福祉・地域包括ケア・まちづくり推進:支え合い 学び合い 育て合い』
	梅田東	高齢者の予防意識の向上と問題が重篤化する前に支援につなげる
	豊崎	地域包括ケアシステムの推進と地域との共同支援体制の確立
港区	港南	地域に出向こう！気軽に相談が出来る相談窓口の周知に向けて
	市岡東	複合課題のある高齢者および家族への関わりについて
	築港	地域関係者にランチを深く認識していただき相談しやすい関係を作る
浪速区	日本橋	高齢者が暮らしやすいまちづくりとネットワークの構築 ～高齢者の見守りと地域のふれあい開発～
東淀川区	瑞光	地域包括ケアに向けて、認知症になっても住み慣れた場所で生活できる地域づくり
生野区	大池	・ランチの周知活動と相談しやすい環境づくりの構築。 ・地域における認知症の方々や、ご家族に対する支援の推進。
	生野東	・地域との連携・協働のためのネットワークを構築する。 ・地域の実態把握と相談窓口の周知活動をおこなう。
	田島	集合住宅に住んでいる地域高齢者の実態把握に向けて
	新生野	相談内容件数が多い認知症への取り組み。 ・認知症予防への取り組み。 ・認知症になっても住み慣れた地域で暮らせることが出来る環境づくり。 情報提供の実施、早期発見・早期対応が出来る連絡相談機能の構築。
	新巽	地域住民と顔の見える関係づくりの構築と新巽ランチの周知活動を行い、気軽になんでも相談していただけるような環境づくりを行う。
阿倍野	昭和	地域活動を通じたネットワークの構築(「顔の見える関係作り」を目指して)
	阿倍野	地域団体と相談機関の協働を密に行い、地域における見守り支援体制づくりの活性化を図る
住之江区	加賀屋	見守り訪問の実施(加賀屋地域)
	新北島	地域交流会の場作り
東住吉	矢田東	早期相談につながるよう地域との連携を強化する。また地域とランチの関係性だけに留まらず、地域とケアマネージャー等の他の専門職がつながっていけるようサポートする。
	矢田西	地域の行事や会に参画し、矢田西地域の住民へランチを知っていただくとともに、相談しやすい関係作りを目指す
西成区	天下茶屋	地域の集いの場への誘いだし(東部地域包括支援センターと協働した取り組み)
	山王	地域に広がるゆるやかな見守りへ向けて ～居場所作りの拠点・顔の見える関係で繋がる～
	成南	高齢者の居場所作り
	梅南・橘	地域関係者と専門職との協働取り組みと仕組みづくり(つながりの場づくり)「梅南うたごえくらぶ」
	南津守	地域の高齢者が気兼ねなく集まれる居場所作り
	あいりん	住みやすい地域にするには ～徘徊から地域をみつめる～

報告書作成日：令和元年5月15日

活動テーマ	『地域福祉・地域包括ケア・まちづくり推進：支え合い 学び合い 育て合い』
地域ケア会議から見えてきた課題	「認知症」という課題が最も多く、それに付随して、家族支援、意思決定支援、金銭、住居問題等が多くみられた。複合的課題をもつケースも多く、早期に支援関係者が繋がる必要性がある。また、すぐに支援に結びつかないケースも増し、ゆるやかな見守り体制は必須。
対象	圏域住民と関係機関 (地域の活動団体、ボランティア、医療機関、関係機関、母体、職業体験中学生)
地域特性	中津は、北区の中でも高齢化率が高い地域、大型マンション、市営住宅等では、重篤化してから、相談があがるという課題がある。路地は狭く、消防車も入らない戦前の住居が密集しているところもあり、火事、防災に関しては、関心が高く、数十年前のマンション爆発事故もひとつの背景となっている。大阪駅前二期工事が始まり、今後、大淀ランチの圏域は、大きく変化していくことが予測される。もともとの住民と、高層マンションに転入された新住民との双方のつながりが今後の課題となる。その中には、高齢者が転入も予測され、どのように地域とつながるのかといった問題も起きうる。また、主な公共機関への交通の便が悪く地域に向けてのフォローが必要。各圏域共通して、多くの役割を担う人材の後継者づくりも課題である。
活動目標	様々なツールを活用して、小地域単位で、課題を抽出し、具体策を地域住民、関係機関と検討して、それぞれが役割を持って参画できる体制を目指す。
活動内容 (具体的取組み)	<p>【ツール1：認知症】</p> <p>7/26 『手をつなぐ大淀西 皆で認知症を学ぼう』講師吉本診療所 吉本 裕 先生</p> <p>12/9 『手をつなぐ大淀西 認知症をもっと学ぼう!』</p> <p>2/18 大淀東 『認知症を患う方や、なんらかのサポートを必要とされる方への関わり方～学習会』 (大淀東ほっとひと息ひだまりカフェ参画)</p> <p>【ツール2：喫茶、カフェ、高齢者食事サービス、脳活性化プログラムなど】</p> <p>【ツール3：防災】</p> <p>【ツール4：新マンション、旧集合住宅】</p> <p>【ツール5：学習会・勉強会への参加】</p> <p>【ツール6：母体組織淳風おおさか】</p> <p>*6/10『喫茶&amp;カラオケ体操』 *11/18『介護にまつわるお金の話』11/18 ポイント事業、CSW、じゅんぷう喫茶などへの取組み。ガレージセール、夏祭り、餅つきなどへもともに参加。</p>
資料、報告書参照	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	ツール1では、地域の方へより認知症を知ることが、今後高齢者が増えるかなでとても重要なことであるという認識が浸透した形になり、地域での活動へと落とし込むことができた。地域福祉コーディネーター、北区社会福祉協議会はもとより、医療機関とも事前段階で課題の共有ができ、小地域でのネットワークの深さが強まった。そのことなどをきっかけに、個別のケースにおいても早期連携が徐々に可能となってきている。ツール2～6では、様々な活動へ参加、多くの機関と共に、ニーズに沿った活動を行うことでネットワークの範囲が拡大した。個別支援を支える見守り体制の拡大、強化へと発展段階となっている。
資料、報告書参照	
今後の課題	活動においての地域包括支援センターとの共有、連携、協働体制の強化。 隠れたニーズの抽出。活動へ参加されない方。町会等に入っておられない方へのアプローチ。 前年度同様、環境（住まい）や、金銭管理、判断力に課題を持つ方の意思決定が本人の真意に可能な限り近づけるようなサポートを行うには、早期に各機関がチーム支援としての実践力を高める必要がある。
区 地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年7月11日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	様々な地域の行事や講座に精力的に参加し、地域と共に問題解決や地域力向上にむけ活動していることは評価できる。今後もこれまでの継続した取組に加え、マンションアプローチなど新たに計画している取組みを地域と共に進めてほしい。

平成 30 年度 梅田東 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年 5月 13日

活動テーマ	高齢者の予防意識の向上と問題が重篤化する前に支援につなげる
地域ケア会議から 見えてきた課題	1.認知症の人の多くが、初期に発見されにくく問題が多様化している 2.地域とつながりが希薄なケースが多い 3.百歳体操の参加数が減少し衰退してきている地域がある
対象	圏域内地域住民
地域特性	・担当圏域が梅田周辺で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在し多種多様な方がいる。特に高層マンションに転入者が多く人口の増加傾向にある。そのため、セキュリティの問題から地域関係者が介入できない状況にある。逆に転入者は地域情報を知らないまま生活している傾向にある ・圏域により高齢者の意識の違いがある
活動目標	1.高齢者自身の健康、予防意識を高める 2.高層マンションへの周知や啓発により情報共有ができる 3.北天満の百歳体操への参加者が増える
活動内容 (具体的取組み)	1-1 地域住民の実態把握と意識づけ、身体変化の早期発見と対応（継続活動） 実施地域：梅田東 済美 北天満 1) 脳活性化プログラムの実施、 2) 参加希望者には体操前に血圧測定を行い体調の聞き取りを、行い自己管理能力を高める 1-2 地域住民の健康意識を高める 1) 梅田東地域 平成 30 年 10 月 6 日（土）「福祉用具と食フェア」 参加者 65 名 福祉用具の展示・試乗 宅配弁当や補助食品の紹介 2) 堂島・中之島地域 平成 31 年 2 月 23 日（土）「不整脈～心臓のリズムの異常とは」 参加者 24 名 講師 済生会中津病院 循環器内科医師 鈴木 敦 3) 済美地域 平成 30 年 10 月 31 日（水）「不整脈～心臓のリズムの異常とは」 参加者 35 名 講師 済生会中津病院 循環器内科医師 鈴木 敦 平成 31 年 1 月 30 日（水）「糖尿病かな？と思ったら」 参加者 33 名 講師 済生会中津病院 糖尿病内分泌内科医師 前田 康司 1-3 地域関係者との情報の共有 1) 北天満地域、済美地域、堂島・中之島地域の民生委員会への参加 2) 高層マンションへの周知や啓発 1) 堂島・中之島地域出張相談開催 高層マンションへのパンフレットの設置 2) マンション住民の地域ケア会議に管理会社の参加依頼を行い、情報を共有する（1 件） 3-1 現状を地域関係者に把握してもらい活性化に向け働きかける 1) 平成 30 年 6 月 17 日（日）北天満サイエンスカフェ話題提供 天五中崎商店街で包括・ランチの活動内容の紹介や地域の予防教室の紹介 参加者との意見交換 参加者 23 名 2) 認知症予防についての講演会開催（3 か月連続） 平成 30 年 6 月 30 日（土）「物忘れと認知症」 参加者 29 名 講師 済生会中津病院老年内科医師 奥町 泰代 平成 30 年 7 月 26 日（木）「いきいき過ごすためのひけつ」 参加者 12 名 講師 北区保健福祉センター保健師 富田 智子 平成 30 年 8 月 25 日（土）「楽しく認知症予防」 参加者 11 名 講師 音楽療法指導員 楠元 佐知子 3-2 市営住宅内高齢者実態把握 平成 30 年 7 月～9 月 70 歳以上高齢者家庭訪問 83 名対象 北区保健福祉センター保健師、CSW、ランチが協働で家庭訪問を行い、生活状況や疾患、地域活動への参加状況の聞き取りを行った。今後はデータ分析を行い次年度の活動内容に繋げる

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>1. 地域高齢者への予防講演の開催や脳活性化プログラムの実施を継続することで地域住民の健康意識が向上した地域では参加者が同じマンションの高齢者を誘い、気になる方には声掛けをされるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に意識の高い地域では自発的に内容を希望され、年間の取り組みについても一緒に検討するようになっている。(平成31年度は体力測定実施希望)</li> <li>民生委員会の参加により地域関係者からの相談が11件から15件に増加している</li> </ul> <p>2. マンション管理会社へのランチ周知活動により地域ケア会議への参加、情報共有に繋がっている</p> <p>3. 集中取り組みを行った北天満地域に関しては、次年度からはつらつ脳活性化教室が月1回が開催されるようになり、現在の参加者も一桁から二桁に少しずつ増加している</p>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々マンション建設に伴い人口の増加が予測され、地域との関係性が希薄な住民の増加が予測される</li> <li>軽度認知症や自覚が無く支援を拒否する傾向にある方への支援</li> <li>実人数の増加により一人ランチでは窓口に在籍することが難しくなっている</li> </ul>
<p>区地域包括支援センター運営協議会開催日(令和元年7月11日)</p>	
<p>専門性等の該当</p>	<p>地域性      継続性      浸透性(拡張性)      専門性      独自性</p>
<p>今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター運営協議会からの意見)</p>	<p>地域住民の健康意識を高める活動や民生委員会への定例参加などにより、早期の支援につながるよう継続して取組んでいる。また、マンションアプローチにおいて管理会社との連携や市営住宅に居住する高齢者の実態把握など戦略的な新たな取組についても評価できる。実態把握の分析等も踏まえ、今後も計画的に取組みを進化させてほしい。</p>

平成 30 年度豊崎総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年5月17日

活動テーマ	地域包括ケアシステムの推進と地域との共同支援体制の確立
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域のネットワークから離れている方を地域へつなぐ。 早期相談につながるよう顔のみえる関係づくり 地域関係者や他職種との支援体制づくりの強化
対象	本庄・豊崎の地域住民
地域特性	・本庄・豊崎地域においては流動人口の増加による地域ネットワークの分散がみられる。 ・両地域ともに地域関係者による福祉活動に対する積極的な取り組みがある一方、そもそも地域ネットワークから離れて生活されている層が存在している。
活動目標	・地域住民が総合相談窓口を理解し活用できるようにする。 ・地域における高齢者、及び認知症の方の見守り活動を推進する。
活動内容 (具体的取組み)	(1) 本庄 UR 住宅におけるふれあいカフェの活動に参加し、地域との関係作りを行い、新たなネットワークを構築していく。 運営会議 毎月第一金曜日 開催日 毎月第二木曜日  (2) 豊崎地域における小地域ケア会議の開催 平成 31 年 2 月 2 7 日  (3) 認知症カフェによる専門相談 大淀老人センター 1 階会議室 毎月第三木曜日 14:00~15:00 大淀包括支援センターと協働で専門相談を実施
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	(1) 月 1 回のふれあいカフェを実施することができた。 (2) 小地域ケア会議を通して、地域関係者を含む高齢者支援ネットワークができ、マンションアプローチ等の地域課題に取り組める体制作りができた。 (3) 相談の場があることを知って相談に来られる方がでてきており、相談場所があることを知って下さる方が増えている。
今後の課題	(1) カフェの実施はできたが、限られたボランティアで活動を負担なく続けていくことが難しいため、継続的な活動になるようにする。 (2) 担当者が代わっても安定した活動ができるように体制を整えていく。 (3) 気軽に相談できる場としての周知活動を行う。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年7月11日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	昨年度からの UR 住宅における取組みを継続し、ふれあいカフェの開催や運営を支援し地域と共に実施できたことは評価できる。今後も、地域と共に高齢者支援のネットワークの構築を図り、活動を継続させてほしい。

平成 30 年度 港南総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 29 日

活動テーマ	地域に出向こう！気軽に相談が出来る相談窓口の周知に向けて。
地域ケア会議から見てきた課題	世帯が様々な複合的な課題を抱えており、地域関係者、他職種が連携しての支援が必要。また、認知症の進行により支援拒否者が増えている。
対象	複合的な課題を抱えている世帯。認知症が進行、重度化している高齢者。
地域特性	<p>【市岡】比較的新しい世帯数の多いマンションや戸建ての住宅が多い一方、昔ながらの戸建も多い。港区の11校下の中では高齢化率は一番低く22.4%である。</p> <p>【田中】マンション、ワンルームなど集合住宅が多い一方で、昔ながらの戸建、文化住宅も多い。高齢化率は26.8%であり11校下の中では下から5番目である。                  高齢化率は平成30年3月末時点。港区の高齢化率は27.2%である。市岡・田中共に港区の高齢化率より低い。</p>
活動目標	早期発見、早期対応により認知症が進行し重篤化する前に、支援介入できる地域との関係づくり。地域で孤立せず、地域と繋がりが持てる高齢者を増やす。
活動内容 (具体的取り組み)	<p>【市岡】地域で開催されている健康笑顔サロン、いきいきサロン、いきいき百歳体操に参加し、その場での地域関係者との情報交換や、相談対応、その後の見守り訪問などを行う。また、参加高齢者と直接的な会話の中での状態の把握や相談対応を行う。                  ネットワーク委員会、民生委員協議会、連合振興町会などの会議に参加し、港南ランチが認知症、介護サービス、権利擁護など高齢者の総合相談窓口である事の周知、顔の見える関係の構築、その場での地域関係者との情報共有、相談対応を行う。</p> <p>【田中】いきいき百歳体操、いきいきサロン、田中食堂、喫茶れもん出来るだけ参加をし、その場での地域関係者との情報交換、情報共有、相談対応、顔の見える関係の構築に努めた。また、参加高齢者と直接的な会話や関わりの中での状態把握や相談対応を行う。                  民生委員協議会の会議に数回参加し、港南ランチが高齢者の総合相談窓口である事の周知に努めた。                  また月に一度、港区社会福祉協議会にて開催されている、地域見守りコーディネーター連絡会にも、ほぼ毎回参加し担当圏域内外の地域見守りコーディネーターと交流を図る。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>上記活動による、会議開催・参加状況であるが、下記の通りである。</p> <p>【その他ネットワーク構築のための会議】平成29年度35回 平成30年度66回。                  【地域等との関係づくり】平成29年度110回 平成30年度92回。</p>
今後の課題	<p>【市岡】30年度はネットワーク委員会の会議への集中参加に力を入れたが、引き続き今年度も毎月の参加を目指していく。また連合振興町会・町会長会議にも参加依頼を行い、参加回数を増やす事により各町会との連携強化に努める。</p> <p>【田中】百歳体操やサロン等に引き続き参加し今後も関係づくりの維持と構築を行う。地域関係の会議に今後参加していく為に、参加依頼を行い、連携の強化に努める。</p>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年7月16日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	市岡・田中地域で開催されるサロンや百歳体操に参加し、地域関係者との交流を深めながら、情報交換、共有を行っている。また各催しに参加されている高齢者とも顔の見える関係をつくりながら、本人の抱える課題について把握をし、支援するよう努めており今後もその取り組みを強化するよう求めます。

平成 30 年度 市岡東総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 17 日

活動テーマ	複合課題のある高齢者および家族への関わりについて
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域において潜在する高齢者と家族に課題を持つ世帯がある
対象	地域における複合課題を抱える世帯
地域特性	波除地域：市営住宅が9棟あり高齢化しているが、新しいマンションには子育て世代が暮らしている。また、工場等が並ぶところもある。 南市岡地域：1丁目・2丁目のみで構成されており、地域のつながりが強い。古い住宅も点在し、尻無川沿いには瓦を取り扱う会社が並んでいる。 両地域とも、地域ネットワーク委員、地域見守りコーディネーターが活動的であり、ふれあい喫茶、いきいき百歳体操など地域のサロン等の活動を行なっている。
活動目標	地域において高齢者のみならず家族にも課題がある世帯への相談を関係機関と協同で支援する体制を構築する
活動内容 (具体的取り組み)	波除地域：ワクワクタイムなみよけ（法人主催）いきいきサロン、ふれあい喫茶、ふれあい食事サービス、いきいき百歳体操に参加し、その場で地域関係者との情報交換や相談、見守り体制の確認、訪問等を行なっている。 地域ネットワーク委員会、民生委員協議会、連合振興町会長会議等に参加し、市岡東ブランチが権利擁護支援、認知症相談、介護相談などの総合相談窓口であることを周知、情報共有などを行っている。 南市岡地域：いきいきサロン、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、ふれあい食事サービスに参加し、その場で地域関係者との情報交換や相談、見守り体制の確認、訪問等を行なっている。 地域ネットワーク委員会、民生委員協議会などに参加し、市岡東ブランチが権利擁護支援、認知症相談、介護相談などの総合相談窓口であることを周知、情報提供などを行っている。 地域との関係づくり みなまるネットへの参加 各地域包括支援センター、総合相談窓口、港区障がい者基幹相談支援センター、港区見守り相談室との情報共有とお互いを学び・知る機会をつくっている。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	認知症高齢者の判断能力が著しく低下した際に、精神障がいを持つ家族に対して、障がい者基幹相談支援センター・港区地域包括支援センター・介護支援専門員・港区保健福祉センター等と協力し、本人と家族の気持ちをくみ取りながら本人の権利擁護のために支援することができた 「複合課題のある世帯に関する地域ケア会議」 平成 30 年 8 月 平成 30 年 10 月 平成 31 年 1 月 合計 3 世帯の事例があった
今後の課題	担当者が変更になったため、あらためて地域の方々から相談していただきやすい関係性の構築を図る必要がある 複合課題を抱える世帯において、高齢者の権利擁護支援の一つとして成年後見制度の活用を今まで以上に検討していく
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 16 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	今年度は担当者の変更があったが、スムーズに引き継ぎが行われている。波除、南市岡地域で開催されるサロンや百歳体操に参加し、顔の見える関係づくりに努めている。今後も、各支援機関と連携し、課題のある人には迅速に対応し、また権利擁護の観点から成年後見制度の活用に努めていただきたいと思います。

平成 30 年度 築港総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 26 日

活動テーマ	地域関係者にランチを深く認識していただき相談しやすい関係を作る。
地域ケア会議から 見えてきた課題	集合住宅の住民は地域関係者や近隣住民との関係が希薄で、認知症の進行や生活困難な状況が潜在化している事が多い。また、自治会役員が輪番制などで毎年変わり、見守りや相談をつないでいただく役割としては弱い実状がある。
対象	・地域住民、地域関係者
地域特性	・高層を含めた市営住宅が多く高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準にある。 ・ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りCOとの繋がりも強い。
活動目標	・地域関係者や関係機関との連携を深め協働して支援する体制を構築する。 ・認知症の疑いや進行が見受けられる高齢者の早期発見。
活動内容 (具体的取り組み)	・ネットワーク委員会、見守りコーディネーター、民生委員協議会の会議への積極参加。 ・ラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事会や各種サロン活動に参加し、地域関係者との関係強化に努めると共に地域高齢者へのランチ周知に努めた。 ・退院後の支援や病院受診を円滑にすすめるため、地域医療連携室との情報の共有など連携に心がけた。 ・早い段階から地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームと連携し協働して支援にあたった。 ・平成30年度は築港、港晴両地域の出張相談会時に福祉用具セミナーを開催し、地域住民へ相談会だけでなく役立つ情報の提供が行えた。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	・ネットワーク委員、見守りコーディネーター、民生委員との顔の見える関係作りに努めることで、地域で気になる高齢者の情報を早い段階から共有でき、連携して見守り支援できた。特に独居高齢者や認知症が疑われる高齢者は生活歴や現在の生活状況等を把握する事が困難である。 長年生活基盤のある地域関係者からの情報提供が早期介入をするために非常に役立った。 ・認知症が疑われる、また進行して日常生活に支障をきたしている高齢者に対して地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームと初期段階から協働して支援にあたることで医療機関受診や介護サービス利用、成年後見制度に繋げることができた。
今後の課題	・出張相談会を圏域内2箇所毎月開催しているが、相談件数増加に向けたさらなる工夫が必要。令和元年度は出張相談会の開催場所を増やす予定。 ・地域関係者や関係機関との連携協働体制を今後も維持しながら、新たな連携先の開拓。 ・集合住宅での高齢世帯や独居高齢者の見守り体制の強化。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年7月16日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	築港・港晴地域で開催されるサロンや百歳体操等に参加することや、毎月の出張相談会を開催することで、地域住民との繋がりが生まれてきます。定例的な活動を続けることが、地域に定着し、存在を認識される効果的な方策であったと考えます。今後は、各地域での課題に沿った内容を盛り込んだ相談会ができるよう努めてください。

平成 30 年度 日本橋 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 31 年 4 月 6 日

活動テーマ	高齢者が暮らしやすいまちづくりとネットワークの構築 ～高齢者の見守りと地域のふれあい開発～
地域ケア会議から見てきた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古くからの住民と転入者が交差せずに生活できる環境のため、課題を抱えた人の発見が遅れ、重篤化してようやく発見される事が多い</li> <li>・認知症の進行により地域での関係が悪化し、認知症の人を孤立させている。</li> <li>・要援護者の発見と見守り、担い手の発掘のために、新たなつながりの場が必要。</li> </ul>
対象	恵美・新世界 日東 日本橋
地域特性	<p>○日東地域は、市営住宅が多くあり、昔からの住民や親せき関係の入居が多いが、最近では、外国籍の方の入居も増えてきている。近隣付き合いはあるが、高齢化や、外国籍の方が増えてきた事もあり、孤立する人も出てきている</p> <p>○恵美・新世界地域は、流入者が生活しやすいワンルームマンションが多く、地域とのつながりが希薄なため、生活状況の情報収集ができにくく、独居男性が多いため、孤立化しやすい</p> <p>○日本橋地域は、昔から商売をしていた人が多く、つながりは今でもあるが、高齢化してきたことにより、自宅周囲から出かける事が少なくなり、つながりが希薄化しつつある</p> <p>○日東、日本橋、恵美・新世界地域共に、旅行者や観光客が増え、高齢者にとっては過ごしにくくなっている。</p>
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マンションや集合住宅管理人、家主等地域関係者へ総合相談窓口の周知活動を行う事により、顔の見える関係づくりから、相談につながるようにする</li> <li>2. 定期的な訪問やチラシの配布を行う</li> <li>3. NWS と協働し、訪問活動やふれあいの場作りの提案をする</li> </ol>
活動内容 (具体的取組み)	<p>NWS と共に独居高齢者、認知症高齢者の多く住むマンションやアパート管理人や地域関係者へ定期的に訪問し、ランチの周知を行う</p> <p>当初は新世界地域から始めたが、日本橋地域、恵美地域も NWS に協働していただく事ができ、定期的な訪問活動を実施している。訪問場所としては、アパート、マンション以外に高齢者に関係する場所として、タバコ屋、喫茶店、酒店等にチラシ配布や相談窓口の啓発を行った。</p> <p>ふれあいの場づくりとして、新世界地域では、百歳体操の後、月に 1 回、認知症や介護予防の啓発を実施する事が出来ている</p> <p>恵美、日本橋、日東地域においては、食事サービスの後、不定期だが脳トレ体操等を実施し、認知症予防、介護予防の啓発と共に、ふれあいの場作りとして、担い手の後方支援に協力している。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 については、地域関係者からの相談が増えた（H30 年度上期 9 件、下期 52 件と増加している）</li> <li>2 については、定期的な訪問により、ランチ、NWS、地域の繋がりが強化が図れた（H30 年度相談上期 27 件、下期 33 件と増加してきている）</li> <li>3 については、新世界、日本橋、恵美地域では、毎月 1 回の地域訪問活動が定着した。新世界地域では、毎月第 2 火曜日の百歳体操終了後はふれあいの場として脳トレ体操や認知症、介護予防の啓発活動が定着し、地域の方から楽しみにしているとの声が多く聞かれる。参加人数も増えてきている。</li> </ol>
今後の課題	<p>日東地域については、NWS との連携は出来ていたが、地域の訪問活動については、実施できておらず、担当圏域全ての地域訪問活動は出来ていなかった。</p> <p>訪問活動だけでは、地域で孤立した高齢者を見つける、見守る事が難しく、NWS やボランティアも含めた見つけて、見守る支援体制が必要</p>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 3 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	<p>NWS と一緒にマンションやアパート管理人、地域関係者を訪問し、啓発活動を行うことで、相談件数は増えている。地域も当初は新世界地域だけであったが、他の地域の NWS にも協働して頂くことで、活動の場が広がってきている。</p> <p>今後も地域や関係機関と協働し、高齢者が暮らしやすいまちづくりに向けて活躍を期待している。</p>

平成 30 年度 瑞光総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年 7 月 9 日

活動テーマ	地域包括ケアに向けて、認知症になっても住み慣れた場所で生活できる地域づくり
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域住民へ認知症に対する理解を広めること
対象	地域住民、高齢者と接する職業にある人
地域特性	瑞光地域は鉄道の駅を3つ含み商業施設や住宅街が混在する。高齢化率は25.0%であり、全国平均に比べると若干低いものの、地域によってはかなり高くなっているエリアも複数ある。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーターを増やすこと。</li> <li>・認知症に対する正しい理解を促すことで、それぞれができることを考えるきっかけを作り、住み慣れた地域で生活が継続できるネットワークづくりの一助とする。また同時に地域住民への包括ランチの周知の機会とする。</li> </ul>
活動内容 (具体的取組み)	<p>(1) 認知症サポーター養成講座の開催協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープン参加型（開催日...対象） 7/21...地域住民等</li> <li>・その他（開催日...対象） 6/20...小規模多機能型施設及び有料老人ホームスタッフ 7/26...配食サービススタッフ 9/11...阪急電鉄駅員 11/27...サービス付き高齢者向け住宅スタッフと居住者</li> </ul> <p>(2) 地域住民に対する周知活動（講演等）</p> <p>以下に対して、認知症の知識、対応、予防等について講演をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山公園マンション住民（4/7）</li> <li>・相川地区老人会（6/20、2/20）</li> <li>・瑞光コーポ老人会（9/16）</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーターを共催にて63名養成した（平成29年度は62名）。</li> <li>・平成30年度の瑞光ランチにおける認知症高齢者（疑いも含む）の相談割合は、44%（新規相談案件数123件中54件）となっており、前年31%（同134件中42件）に比べて13%増えている。</li> <li>・参加した方からは認知症がどんなものかを理解できたとの感想が多く聞かれたが、その一方で認知症の方への対応や声かけが難しい、自分（家族）が認知症になったらどこにまず相談したらよいか、サポーターとして何ができるのか、といった声も上がった。</li> </ul>
今後の課題	認知症に対する理解を広めること自体よりも、そのことによって地域住民が認知症に対して日頃から気にかける機会を増やすことにより、認知症高齢者とその家族が地域から孤立しない地域づくりが望まれる。今後もその視点に立って、新たなエリアも含めて繰り返し活動をおこないながら、包括ランチに相談してもらいやすい環境づくりに努める。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年7月31日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	北部包括圏域で課題となっている認知症対策において、包括と協働して認知症に対する啓発活動を活発に実施していることは評価に値する。今後は育成した認知症サポーターが地域で活動できるような仕掛けを期待する。

平成 30 年度 大池地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和 元 年 6 月 28 日

活動テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチの周知活動と相談しやすい環境づくりの構築。</li> <li>・地域における認知症の方々や、ご家族に対する支援の推進。</li> </ul>
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>高齢者の同居している子供に障がいがあり、その高齢者に支援や介護が必要な状況（認知症）になっても、サービスにつながっていないケースがある。地域住民と協力・情報共有しながら、早期発見できるように努める。</p>
対象	<p>地域の高齢者、地域住民、地域役員。</p>
地域特性	<p>中川・御幸森地域は外国籍の方が多く住んでいる。古くからの木造住宅が多く残っており、高齢化が進んでいる。</p>
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事等、開催時にランチの周知活動を引き続き行う。</li> <li>・中川オレンジカフェを活用し、地域の認知症の方々を支援する。</li> </ul>
活動内容 (具体的取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30 年度も夏の熱中症予防・見守り訪問を実施し、各町会役員の方々、区社協、鶴橋包括と協力して独居高齢者世帯を中心に自宅を訪問した。同時に、相談窓口である大池ランチのチラシを配布し、ランチの周知を行った。</li> <li>・中川オレンジカフェ（認知症カフェ）の開催。 毎月第3金曜日に、レインボー今里（特養）との共催で1階のカフェスペースにて認知症予防体操や工作・小物作りを行い、認知症の方と地域住民が触れ合う場所を提供。認知症の方やご家族への支援を行った。</li> <li>・鶴橋地域包括支援センターと共催し、奇数月の第2金曜日に中川老人憩いの家出張相談会を開催。地域住民が行きなれた場所に出張することで、相談しやすい環境づくりに努めた。</li> <li>・包括・地域役員と協力し、家族介護支援教室を開催。体力測定やフレイル予防の講座を開催し、健康や高齢者の栄養に対する関心を深め、同時にランチの周知も行った。</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事や催し物に参加することでランチの周知活動を行い、顔なじみの関係になることで、相談しやすい環境を整えることができた。また、地域の役員・住民の方々から相談を頂き支援に繋げることができた。</li> <li>・地域の認知症の方にオレンジカフェに来ていただき、役割を持ってもらったり、一定の居場所づくりができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民がより相談しやすい窓口として、信頼関係を構築していくこと。</li> <li>・認知症の方々の、ご家族への支援が十分ではなかったため、取り組んでいく。</li> </ul>
<p>区地域包括支援センター運営協議会開催日（ R 元年 7 月 30 日 ）</p>	
専門性等の該当	<p>地域性      継続性      浸透性（拡張性）      専門性      独自性</p>
今後の取り組み継続 に向けてのコメント (区地域包括支援 センター運営協議 会からの意見)	<p>ランチの周知活動に取り組むことにより、相談しやすい環境づくりを強化している。認知症カフェを開催することで、認知症の方及び本人の支援となっているので、継続していただきたい。</p>

平成 30 年度 生野東地域総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和 1 年 7 月 4 日

活動テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携・協働のためのネットワークを構築する。</li> <li>・地域の実態把握と相談窓口の周知活動をおこなう。</li> </ul>
地域ケア会議から見てきた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居の認知症高齢者の支援には、地域との連携やネットワークの構築が重要である。</li> <li>・地域の課題を把握する為には、地域関係者と連携を図ることが必要である。</li> </ul>
対象	当総合相談窓口にて担当する圏域内に暮らす高齢者やその家族・地域関係者・ボランティア・その他の地域住民 ほか
地域特性	生野区の中でも特に高齢化率の高い地域のひとつである。戦火を逃れた地域であり、町並みは古く木造の文化住宅や連棟式住居も多く立ち残るが、その一方で徐々に新しい住宅も立ち並びはじめている。地域の町会活動や地域行事等は比較的盛んであり、隣近所の交流も残っている地域も多い。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民との連携・協働を深める為、地域高齢者の関心が高い内容の講座を開催し「顔が見える関係」を構築していく。</li> <li>・地域活動に参加し、総合相談窓口が「気軽に相談できる窓口」である事の周知と啓発活動をおこなう。</li> </ul>
活動内容 (具体的取り組み)	<p>生野東地域 熱中症予防のための戸別訪問の実施</p> <p>昨年度に引き続き、生野地区運営委員会、生野区地域包括支援センターと当窓口の共催にて、生野東地域の2つの町会の70歳以上の高齢者を対象とした熱中症予防のための戸別訪問を実施した。熱中症の注意啓発と同時にエアコンの使用状況や、介護サービスの利用状況、困った時に頼りになる人はいるかなどの聞き取りを行い、それに加えて老人憩の家での催しや当窓口の紹介など各種社会資源の情報提供を行った。地域高齢者把握や分析をおこない、その結果を地域の課題としてまとめ、町会関係者および地域の民生委員へフィードバックを行った。</p> <p>府営南生野住宅まちかど相談会の実施</p> <p>独居高齢者や高齢夫婦の世帯が多く居住する府営南生野住宅において、まちかど相談会を実施。またエンディングノートの書き方、認知症・認知症予防や脳トレについてについて講演を行った。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>生野東地域 熱中症予防のための戸別訪問の実施</p> <p>2つの町会、合計168人の高齢者宅を訪問した。認知症の疑いなど気になる方を発見し、関係機関と連携し支援へつないだケースがあった。また、介護サービスを必要としておられる方には必要なサービスの提案を行うなど各種専門機関と連携し支援を行った。その他、ご近助パワフルサポーター事業や地域行事の紹介や提案を行ったケースもあった。</p> <p>府営南生野住宅まちかど相談会の実施</p> <p>合計37名の参加があった。エンディングノート・認知症講座のどちらについても参加高齢者の関心は高く、熱心に講義を聞きながらメモを取られている姿も見られ、積極的な相談会となった。また、アンケート結果から相談窓口のさらなる周知の必要性が明らかとなった。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係者および民生委員等とより連携を深め、地域の実態把握に努める。</li> <li>・ニーズの掘り起こしを行い、必要時は迅速・柔軟に連携できるようにしていく。</li> <li>・引き続き総合相談窓口の周知・啓発活動を行う</li> </ul>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（R元年 7月 30日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域特性を踏まえながら、地域と協働した取り組みを積極的に行われており、地域に浸透していることが伺える。

平成 30 年度 田島総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和 元 年 6 月 27 日

活動テーマ	集合住宅に住んでいる地域高齢者の実態把握に向けて
地域ケア会議から 見えてきた課題	○住人の半数以上が高齢者世帯である集合住宅において、詐欺被害が頻発している。 ○集合住宅内に町会とは別で集合住宅の自治会があり、町会関係者も把握がしきれない。 ○集合住宅の住人からの相談が増えてきているが、地域包括支援センターやブランチが実態を把握できていない現状がある。
対象	集合住宅及び集合住宅周辺にお住まいの地域高齢者
地域特性	○65 歳以上の高齢者数 4708 人、高齢化率 33.7%、外国籍(特に韓国・朝鮮籍)の方が多い。 ○集合住宅 全 132 戸、 ○町会や自治会関係者が地域のことをよく把握して見守ってくださっている。 ○以前は集合住宅主催で夏祭りなどの行事を行っていたが、騒音などへの苦情、自治会関係者の高齢化に伴って開催ができなくなり、集会所の活用や地域の方が交流できる場が難しくなっている。
活動目標	○会館での地域行事の参加が、距離等の問題があり難しい地域高齢者に向けて相談会を実施し、地域の実態把握を行う。 ○地域高齢者への地域包括支援センター、ブランチの周知及び、情報提供を行うことで詐欺被害防止の啓発、困りごとの早期相談や支援が必要な高齢者の早期発見を行う。
活動内容 (具体的取組み)	○集合住宅のある町会に対して、地域包括支援センターと相談会の実施に向けて提案を行い、集合住宅自治会に集会所の利用、協力の許可を頂いた。 ○実態把握に向けて相談会と同時に地域住民の交流の場を計画した。 ○自治会関係者の協力のもと、周知を行い、2 回開催することができた。 ・11 月 13 日(土)「懐かしの歌に合わせて」 10 名 ・3 月 2 日(土)「落語のつどい」 13 名 ○各回レクリエーション後に茶話会形式の相談会を実施。地域包括支援センターやブランチの周知、詐欺被害防止の啓発やいくみんお守りキーホルダーの周知等を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	○町会関係者・自治会関係者と協力して、計画～実施したことで、連携を強化することができた。 ○相談会開催のチラシを自治会関係者の協力のもと周知にまわったことで、自治会関係者が把握している気になる高齢者世帯について知ることができた。(4 8 軒) ○参加者の中には、すでに介護保険サービスを利用され、1 人では集会所までの移動が難しい状態の方もいたが、住民同士での声掛け・フォローにより参加されており、集合住宅内のつながりについて知ることができた。 ○詐欺被害の情報提供・注意喚起では、自分のところにも電話があった、訪問がきた等の話からその時どう対応したのかの話を住民同士で共有することができた。
今後の課題	○高齢者世帯は多く存在しているが、相談会への参加には至っていないのが現状。地域住民に相談会のこと、相談窓口のことを知って頂けるように継続的に開催・周知を行うこと。 ○相談会の参加者から参加されていない地域住民の方に、詐欺被害の情報や相談窓口のことを話してもらえよう開催時には新しい情報を提供し、意識してもらうこと。 ○開催の継続に向けて、自治会関係者や町会関係者、関係機関との連携を強化していくこと。
区地域包括支援センター運営協議会開催日( 令和元年 7 月 30 日)	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性(拡張性) 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント(区地域包括支援センター運営協議会からの意見)	地域の特徴をとらえ、自治会関係者と協力して相談会を開催し、連携強化が図れたことは評価できる。

平成 30 年度 新生野ランチ総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日： 令和元年 6 月 30 日

活動テーマ	相談内容件数が多い認知症への取り組み。 ・認知症予防への取り組み。 ・認知症なっても住み慣れた地域で暮らせることが出来る環境づくり。 情報提供の実施、早期発見・早期対応が出来る連絡相談機能の構築。
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症の方への理解を深め支えあえる地域作り。 ・独居及び高齢者世帯の認知症早期発見。
対象	地域在住及び高齢者・地域振興会・民生委員・関係機関
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みが変化してきている。マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。
活動目標	地域との連携を重視し地域行事・広報誌などで地域包括・ランチ機能を啓発すると共に認知症・予防についての情報提供し早期発見・早期対応を目指し様々な相談に対応する。
活動内容 (具体的取り組み)	・認知症カフェ（ゆったりカフェ）の実施 瑞光苑ロビーにて第一土曜日に実施。 出張認知症カフェの実施（瑞光苑まで来れない方対象） ・巽東小学校での認知症サポーター養成講座の実施 ・地域行事への参加（サロン月1回・喫茶月1回・食事サービス月2回など） 地域包括支援センターとランチの啓発、認知症予防などの情報提供実施。 ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防啓発 広報ランチを制作し認知症予防の情報を発信 ・家族介護者教室での「歌って楽しく認知症予防」のセミナーの実施
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	・認知症カフェ（ゆったりカフェ）の実施 毎月第一土曜日実施 11 回開催。 出張認知症カフェ実施 10 月 6 日 16 名参加 ・巽東小学校での認知症サポーター養成講座の実施 3 年生(78 名)+保護者(3 名) 6 年生(69 名)+保護者(3 名) 合計 153 名参加 ・家族介護者教室での「歌って楽しく認知症予防」50 名参加 ・マンションへの啓発「ゆったり通信」4 件のマンションに対し 4 回配布
今後の課題	・認知症への理解を深め早期発見早期対応や地域で見守れる町づくり。 ・若年世帯（別居世帯）への認知症早期発見、相談窓口の情報提供。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（R 元年 7 月 30 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域における認知症に関する啓発として小学生や保護者など若い世代へのアプローチをされていることが評価できる。 地域行事に参加し、地域との連携強化ができていますので継続していただきたい。

平成 30 年度 新巽地域総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：2019 年 7 月 3 日

活動テーマ	地域住民と顔の見える関係づくりの構築と新巽ランチの周知活動を行い、気軽になんでも相談していただけるような環境づくりを行う。
地域ケア会議から 見えてきた課題	身寄りのない独居の高齢者をどのように支援していけばいいのか本人様の最後をどのように迎えたいのかを意思確認することで、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関が共通の認識を持つことでその方を支えあうことが出来るよう会議を開催することが出来たが、まだまだ町会に未加入の独居高齢者を把握することが、課題。
対象	巽南地域在住の高齢者、その家族、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関
地域特性	巽南地域は、平野区と隣接する生野区の最南端の地域です。旧村時代の面影が残る古い町並みが、残る一方、内環状線や地下鉄駅周辺では、マンション、飲食店、コンビニなどの新しい建物が増えています。マンションの住民などは町会に未加入で、地域行事などにも参加しない方も多い。また役所などに行くにも不便である。
活動目標	包括、ランチの周知活動を行い、困りごとを気さくに相談していただける顔の見える関係づくりの構築
活動内容 (具体的取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奇数月の 15 日に [ 地域交流スペースいらカフェ ] で映画上映会開催</li> <li>・ 巽南食事サービス、いきいき教室への参加、レクリエーション、自力で参加できない方の送迎活動。包括、ランチからの啓発活動を行う、</li> <li>・ 家族介護者教室 平成 30 年 6 月 22 日 「笑顔で楽しく 地域の絆」童謡 100 周年 次の世代につなごう 平成 30 年 11 月 17 日 「今さら聞けない介護の話」～施設の選び方ポイント～ 平成 30 年 3 月 15 日 「ズンバ教室」</li> <li>・ 巽南福祉活動企画委員会（キラキラ会）に参加させていただき、朝市、ふれあい祭り（お化け屋敷） わくわくレクレクリエーションに企画から参加</li> <li>・ 在宅認知症ネットワーク会議、ランチ連絡会参加</li> <li>・ 福祉有償車両（巽Dブロック）外出支援のための会議に参加。</li> <li>・ オレンジチームとワンルームマンションに「まずは相談」「おかちやまオレンジチーム」等の資料の配布を行う。</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の行事に積極的に参加することで新巽ランチの存在を多くの地域住民に知っていただけになった。</li> <li>・ 地域交流スペースいらカフェで、総合相談窓口の席を設けており、気軽に声をかけていただけるようになり、来所での相談も増えてきた。</li> <li>・ 認知症の理解についての情報提供ができた。（送迎などを行い新規の認知症高齢者の方も巽南地域の食事サービスや地域行事の参加出来るようになる。）</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おかちやまオレンジチームと協働して町会に未加入の方達、地域行事に参加されていない高齢者への周知活動の継続。</li> <li>・ 町会長、地域関係者、民生委員等とより連携を深め、さらなる地域の実態把握に努める</li> </ul>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（ R 元 年 7 月 30 日 ）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	ランチ開設 2 年目のため、周知活動を強化しており、地域の行事に積極的に参加し、顔の見える関係づくりをしていることが評価できる。

平成 30 年度 昭和地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和 元年 7 月 2 日

活動テーマ	地域活動を通じたネットワークの構築（「顔の見える関係作り」を目指して）
地域ケア会議から見てきた課題	高齢者世帯や独居高齢者が多く、親子共に課題を抱えたケースや複合的な課題を抱えたケースが増大している。また、経済的課題を抱えたケースが重篤化してから表面化する事も多い。早期発見・早期対応に向けて、ケースワーカーや民生委員等の関係機関との連携の強化や、地域住民と関わる場を増やし、相談窓口の周知及び予防的な関わりを広げていく必要がある。
対象	長池連合町会内の地域住民
地域特性	長池地域は南北に長く、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。公共交通機関の利便性が確保されておらず、交通弱者問題が発生している。また、地域内でも経済的な格差が多い。
活動目標	「顔の見える関係作り」を目標に、各関係機関との連携を強化し、既存のネットワークをベースに、新たな活動の場を加え、幅広く情報収集や発信ができるネットワークを構築する。
活動内容 (具体的取組み)	<p>【長池ふくし相談学習会】 計 4 回開催</p> <p>7/12 「認知症について学ぼう！」 参加者：20 名 相談者：1 名 ・キャラバンメイト連絡会による、認知症サポーター養成講座、オレンジチームの紹介等</p> <p>9/13 「はつらつと脳活性体操をしよう！」 参加者：22 名 相談者：0 名 ・保健福祉センター地域担当保健師による、認知症予防の講話、しゃきしゃき百歳体操実践</p> <p>12/13 「特殊詐欺対策について学ぼう！」 参加者：12 名 相談者：3 名 ・阿倍野警察署による、区内の特殊詐欺の現状、特殊詐欺対策等の講話</p> <p>2/21 「口腔ケアについて学ぼう！」 参加者：9 名 相談者：0 名 ・阿倍野区地域包括支援センター保健師による、口腔ケアについての講話</p> <p>【はつらつ健康講座】 計 3 回開催</p> <p>9/6 「朝ごはんをきちんと食べよう」 参加者：18 名（長池連合会館） ・保健福祉センター栄養士、食生活改善推進員協議会による講話と試食</p> <p>10/11 「健康おもしろ講座～笑うことが大切～」 参加者：14 名（桃ヶ池会館）</p> <p>12/19 「健康おもしろ講座～笑うことが大切～」 参加者：25 名（西田辺会館） ・健康管理士一般指導員による、健康講話、血管年齢測定の実施等</p> <p>【長池百歳体操】 平成 28 年 12 月より長池地域で「百歳体操」が開始し、ランチとしては百歳体操の立ち上げから運営に至るまで全面的にバックアップし、地域住民同士の繋がりや情報収集、情報発信、ランチの周知を行なう。</p> <p>【地域の食事サービスへの参加】 月 2 回開催 参加者やスタッフ（地域関係者）に対し、情報収集や情報発信、ランチの周知を行なう。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	H28 年度は「相談・学習会」の参加者 52 名、H29 年度は 57 名、H30 年度は 63 名。「はつらつ健康講座」は H28 年度 48 名、H29 年度 54 名、H30 年度 57 名と年々参加者数も増加している。「相談・学習会」「はつらつ健康講座」「長池百歳体操」を通じて、参加者との交流や参加者からの紹介等で、顔の見える関係作りの構築も広がりつつある。また食事サービスを通じて、参加者やスタッフからの新たな情報提供や相談等も増えてきている。
今後の課題	現在活動している住民と各関係機関との連携で、様々な繋がりを広げ、地域資源との連携をより強固にする。そして新規のネットワーク（新たな社会資源）の構築にも努める。地域関係者との連携も強化し、様々な地域活動を通じて、地域での相談・情報共有・情報発信など地域住民へ幅広く関わる事のできる場所を確保し、「顔の見える関係作り」を目指す。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和 元年 7 月 29 日）	
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	訪問や関係づくりなど、「ランチ」の名のとおり、地域で地道な活動をしている。地域住民との関係づくりを重視する中で、相談・ケース対応等の実績をあげていると感じた。ランチは一人で外回りや会議での報告なども行わなければならないと不十分なところも多いだろう。1 連合に 1 ブランチあれば、もっと気軽に相談でき、対応もしてもらえないのではないか。

平成 30 年度 阿倍野地域総合相談窓口（ブランチ） 課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年 7 月 2 日

活動テーマ	地域団体と相談機関の協働を密に行い、地域における見守り支援体制づくりの活性化を図る
地域ケア会議から見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や地域関係者の認知症への関心の高まりと共に相談が寄せられるようになってきているが、認知症が主な問題として複合的な対応困難ケースについての検討の場が多かった。</li> <li>・長年介護をされていて突然「限界」と施設の入居相談に来所されケースがあり、相談先が分からなかったとも言われていたこともあり、相談機関としての周知を引き続き行っていく必要がある。</li> </ul>
対象	地域住民、地域のコアメンバー（地域支援関係者）、専門相談機関など
地域特性（文の里地域）	文教地区にあり有識人が多く、自立心も高いため支援への抵抗が依然として強いように思われる。問題を抱え込み表面化してからの相談がまだまだ多い。一方で生活困窮世帯への支援も増加しており経済的な問題を有する事例も増えている。
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、認知症対応強化のため、あべのオレンジチーム、強化型包括との連携を積極的に行う。</li> <li>2、地域関係者との積極的な情報共有や友愛訪問などを通して、ニーズの掘り起こしを行う。</li> <li>3、認知症に関する講演会を行うことにより理解を広めるとともに、相談窓口としての周知を行う。</li> </ol>
活動内容（具体的取組み）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、対象者への支援についてオレンジチームと情報を密に共有し、地域ケア会議の個別検討会議などを通して、アセスメントの手法を学び、知識向上と対応力を上げる。 また住み慣れた地域での生活が維持できる様に側面的な支援や環境調整に取り組む。</li> <li>2、地域に向向き地域関係者と交流を図り、要支援者の掘り起こしや支援についての対応を共有し、地域での見守りや対応力の強化を図る。</li> <li>3、講演会や健康のつどい（介護予防教室）などを開催した際に、ブランチの機能や役割について説明を行い相談機関としての周知を行う様にした。</li> </ol>
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関からつながる相談が多かったが、地域へ出向く回数を増やし交流を積極的に行ったことで直接電話や地域へ出向いた際に相談を受けることも徐々に増えてきた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症支援の充実に向けて専門職・地域住民との連携をより一層図り、ケースの掘り起こし、専門職向け研修会、地域住民向け講演会を通して認知症の理解を深めていく。</li> <li>・虐待相談や権利擁護相談への対応力を上げるための研修や関係機関との連携を増やしていくと共に、引き続き地域への相談窓口としての周知や、積極的な広報を行い潜在的なニーズの掘り起こしなどを行う。</li> </ul>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和 元年 7 月 29 日）	
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	訪問や関係づくりなど、「ブランチ」の名のとおり、地域で地道な活動をしている。ブランチは一人で外回りや会議での報告なども行わなければならないと不十分なところも多いだろう。1連合に1ブランチあれば、もっと気軽に相談でき、対応もしてもらえるのではないかと。

平成 30 年度 加賀屋地域総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 25 日

活動テーマ	見守り訪問の実施（加賀屋地域）
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしの高齢者が増え見守り体制が必要</li> <li>問題が大きくなってからの相談が多く、早期発見・介入が課題</li> <li>相談する場所がわからなかったとの声もあり、一人で抱え込まないような取り組みが必要</li> </ul>
対象	加賀屋地域在住の高齢者
地域特性	一人暮らしの高齢者が増えている。昔ながらのつながりがある地域もある一方で、一人で抱え込んでしまう傾向もある。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ活動を通して、一人で抱え込んでしまう方を減らすこと</li> <li>地域の方たちの実際の声を聞き、ニーズを把握することで新たな取り組みに発展させる</li> </ul>
活動内容 (具体的取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>・見守り訪問の実施</b> 町会長、地域ネットワーク推進員と協働で見守り訪問を実施している。 対象者は町会長が日頃から気になり心配のある方が中心。生活状況の確認や地域活動の案内を行っている。平成 30 年度は 46 件訪問を行い、内 6 件は介護保険など総合相談につながっている。</li> <li><b>・教えてリストの作成</b> 町会長や地域ネットワーク推進員と協働で教えてリストの作成。 地域住民の状況を把握するために活用を行い、同意を得た上で町会長が保管を行う。</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町会長やネットワーク推進員の方たちと連携しやすい関係作りができています。</li> <li>アウトリーチ活動を通して、地域の実情を知ることができ、困っていることなど地域の方たちの声を聞くことができた。</li> <li>介護保険や認知症についての相談や、災害時の困り事など実態把握にもつながった。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>知り得た情報を今後の展開につなげていくことが課題</li> </ul>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 25 日）	
専門性等の該当	地域性      継続性      浸透性（拡張性）      専門性      独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	<p>地域の方の見守り、地域で活動している点で地域性、コツコツと地域の方と連携した活動を実施している点で継続性の評価できる。</p> <p>実際に町会長やネットワーク推進員と連携しやすい関係を築き、アウトリーチを活用し、シートを作成し、了解の得て情報を共有されている。今後様々な災害等があった際に有効に活用できるよう取り組みを継続してもらいたい。</p>

平成 30 年度 新北島地域総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 21 日

活動テーマ	地域交流会の場作り
地域ケア会議から 見えてきた課題	複合的な問題を抱えるケースが増加しており、支援者間での情報共有・役割分担といった課題がある。 地域関係者やケアマネジャーがお互いに顔が見えず支援しており、それぞれの活動や役割が把握できていない。
対象	地域関係者（民生委員・ネットワーク推進員）・ケアマネジャー
地域特性	平林地域では喫茶を含む地域活動が活発であり、ネットワーク委員やボランティアによる友愛訪問活動などを通じ地域から孤立している住民の早期発見に努めるなど近隣同士による助け合いの意識も高い。
活動目標	地域関係者と介護支援従事者が顔の見える関係になり、地域で起きている課題を一緒に考え、地域で支援していく仕組みを作る。
活動内容 (具体的な取り組み)	地域関係者とケアマネジャーの情報交換会 司法書士を招き勉強会を行った後、ケアマネジャーと地域関係者（民生委員・ネットワーク推進員）との間で地域での課題や要望などについて意見交換を行った。 新北島・平林地域の民生委員会へ、各圏域にある居宅のケアマネジャーと共に顔合わせの機会として出席。 自己紹介とともにそれぞれの活動内容や日々課題と感じている事案を報告してもらった。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	ケアマネジャーからは、地域からの報告を直接聞く事で、それぞれの地域の状況や活動内容、また地域関係者が利用者を支援する場合の困り事などが良くわかったという声が上がった。 民生委員会では、近隣に住む独居高齢者の担当ケアマネさんが分かり、何かあってもどこに連絡すればいいか知ることができたので安心したという声が上がった。 ネットワーク推進員からも、改めて地域で活動するケアマネジャーと顔の見える関係が作れたことが良かったとの意見が聞かれた。 また、それぞれの地域で行っている喫茶やボランティア活動・季節行事など独自の活動内容についての周知にも役立てることができた。
今後の課題	今回上がった意見を効果的に活用していけるよう、地域関係者とケアマネジャーが情報共有できるような場作りを継続して行っていく。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 25 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	交流の場を作る、いわゆるファシリテーター役をする、チームアプローチを先頭きってやっていくという点で専門性があるといえる。 今後も前任者の取り組みを引き継ぎ、活動を展開できるよう、期待している。

平成 30 年度 矢田東総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 18 日

活動テーマ	早期相談につながるよう地域との連携を強化する。また地域とランチの関係性だけに留まらず、地域とケアマネージャー等の他の専門職がつながっていけるようサポートする。
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症が疑われるケースが多い。 高齢夫婦の二世帯で、介護負担の増加から虐待が疑われ、支援の長期化、地域ケア会議を複数回開催するケースも続いた。 支援者が既に付いている場合でも、認知症等が原因で本人の意向が確認しにくいケースでは問題が深刻化してから相談として上がってくるケースが多い。
対象	矢田東・矢田北地域の関係者、住民 各専門機関
地域特性	矢田東地域：長年取り組まれている友愛訪問は形を変えながらも継続して行われている。また福祉委員の在り方を改めて学びなおそう、と地域活動を見直す気運も高まっている。 毎週開催されている地域の予防教室（百歳体操）の参加者は増えており、地域住民で盛り上げていくという意識も高い。 矢田北地域：集会所が地域の中心にあり、住民が参加しやすい環境にある。町会役員等も常駐されており、連携を取りながら迅速な対応をされている。相談対応で情報収集をする際には、連携とネットワークを駆使した協力をいただいている。
活動目標	地域のつどいへの参加を通して、地域関係者や地域住民とつながる。 地域関係者と専門職をつなぐ。
活動内容 (具体的取組み)	地域活動への参加 介護予防教室やつどい場、ふれあい喫茶等への参加を通して地域との関係性作り。 地域関係者との連携、協働 定例の自治会幹事会議への参加や地域福祉サポーター、地域役員と情報共有してのネットワーク構築。 専門職との連携 区保護課ケースワーカーやケアマネージャーとの情報の共有。 ケースワーカーやケアマネージャーとの勉強会に参加。 地域と専門職をつなぐ ケースを通じて、関係者が連携を取りやすくなるよう橋渡し役を担う。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	相談実人員 190 人（昨年 179 人、一昨年 146 人）ランチへ直接相談が入るケースや、ランチが中心となって対応したケースも 74 人と増加している。 地域のイベントやつどい場の活動などで、専門職に参加・協力してもらえようつなぎの役割を担い、地域と継続した関わりを持ってもらうことができた。
今後の課題	地域と専門職とのつながりが、より強くなっていくにはどうすればよいか。地域には専門職の役割を理解してもらう必要があり、専門職には地域の活動を知ってもらう必要がある。お互いの理解を深めてもらうための取組みが今後の課題となる。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 29 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域振興会の役員も高齢化しており負担感があると思うので、後継者の育成が今後の課題である。

平成 30 年度 矢田西総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年 6 月 19 日

活動テーマ	地域の行事や会に参画し、矢田西地域の住民へランチを知っていただくとともに、相談しやすい関係作りを目指す。
地域ケア会議から見てきた課題	相談窓口の周知拡大と問題早期発見の関係・場作りが必要。特に地域行事に参加していない方は地域内での人間関係も希薄であるため、窓口としても関わるのが少なく現状把握ができていない。
対象	矢田西全域の地域住民
地域特性	町会や女性部、自治会、民生委員などの見守りや声が多い。 縦長の地域形態であるため、1 丁目の方が 3 丁目のコミュニティセンターに行くことが難しく、地域の行事や集まりにも参加しづらい。
活動目標	既存の集いの場に継続して参加することを通して、団地の方との顔の見える関係づくりに努めるとともに、住民同士の横のつながりを広めていくことで集いに参加されない方への関係づくりにも努めていく。 引き続きランチの広報紙を活用することで、ランチに直接相談が入るルートを増やしていく。
活動内容 (具体的取組み)	「家族介護支援教室」の開催 毎月第 4 土曜日にせいりょうにて地域向けに様々なテーマで講義型・参加型の講座を開催。平均 24 名のご参加あり、その場ではランチの広報も行っている。 「転倒予防体操」「健康づくり教室」「食事サービス」「リフレッシュのつどい」等地域行事への参加 幅広く顔と名前を覚えていただけるよう地域に出て交流を深めている。 相談窓口についての広報紙の作成・配布 地域の相談窓口として連携を強めるため、地域福祉サポーターと協同にて作成し活用している。訪問時や各体操教室、食事サービス等でも随時情報提供ツールとして活用している。また、あらたにポケットティッシュ型の広報ツールも作成し、併せて活用している。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	総合相談案件数 120 件（29 年度 131 件、28 年度 128 件） ランチへの相談件数 46 件（29 年度 40 件、28 年度 26 件） 地域のつどい場について、毎月参加することで顔の見える関係ができてきたとともに、住民同士の繋がりを知り、広めることができた。また、参加者からは、ちょっとした困りごとも含めて相談していただけるなど、相談窓口としての認識が深まっている。 リフレッシュのつどいについては第 4 木曜日に地域主体での活動が実現できており、主に後方支援を行っている。 広報紙については、1675 世帯に向けて回覧板を回し、掲示板 30 か所にも掲示させていただいた。また、せいりょう祭りや新規訪問時には包括・ランチ・サポーターについての広報紙を挟んだポケットティッシュを配布した。
今後の課題	まだまだ包括・ランチのことを知っていても相談はされずにご自身や地域で抱え込んでいるケースがあることが分かったので、今後より活用しやすい相談窓口として認識していただけるよう働きかける必要がある。 また、介護サービス以外の社会資源についての要望も増えてきているので、それらに対応できるよう知識や各関係機関との連携も相談員自身深めていく必要がある。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 29 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	今までの地道や活動が功を奏していると思う。介護保険以外の社会資源や・防災等のニーズがあると思われる。

活動テーマ	地域の集いの場への誘いだし（東部地域包括支援センターと協働した取組み）
地域ケア会議から 見えてきた課題	平成 29 年度、天下茶屋地域の総合相談件数が急増した。相談はケースワーカーが圧倒的に多く、直接ランチに相談が入るケースも多かった。これは、ケースワーカーや地域関係者に気づきの目が増えたこと、ランチの周知が進んだ結果だと捉えている。しかし、訪問すると、医療や介護につながっておらず、重篤な状態の方もいた。こういった方の多くは地域ともつながっておらず孤立していた。高齢者の閉じこもり予防・孤立防止のための取組みが必要であると考えた。
対象	天下茶屋地域の独居高齢者、高齢者夫婦世帯、複合的な課題を抱える世帯、地域関係者、介護事業所、ケースワーカー等
地域特性	生活保護を受給する単身高齢者で集合住宅（マンション・アパート・ハイツ等）や文化住宅で暮らす方が多い。地元住民とつながりが希薄で閉じこもり傾向の方が多。いきいき百歳体操やふれあい喫茶、民間事業所が開催する居場所もあるが、参加されている方の多くは地元住民で比較のお元気な方が多い。 平成 29 年度：相談件数 1591 件（訪問：735 件・電話：761 件・来所：66 件）
活動目標	天下茶屋地域における気になる高齢者の掘り起しと、高齢者の介護予防に取り組む。また、高齢者の閉じこもり・孤立防止のためのツールを作成する。
活動内容 （具体的取組み）	天下茶屋小学校区において、月 1 回地域住民を対象とした出張相談を行った。 天下茶屋老人憩いの家で開催されている「ふれあい喫茶」にて窓口を設置し、困り事の相談や介護保険の申請支援、地域の集いの場の案内等を行った。 （実施日）毎月第二水曜日 12：00～14：00 （場所）天下茶屋老人憩いの家 当施設 3 階で「いきいき百歳体操」を実施。高齢者の介護予防に取組むほか、地域での困り事、小さな悩みでも相談できるよう参加者との交流を深めていった。 （実施日）毎月水曜日（ふれあい喫茶実施日を除く）13：00～13：30 （場所）天下茶屋地域在宅サービスステーションのぞみ 3 階 天下茶屋地域情報マップの作成 高齢者の閉じこもり予防・孤立防止のツールとして、東部地域包括支援センター・地域関係者と協働で天下茶屋地域情報マップを作成した。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	ふれあい喫茶での出張相談、いきいき百歳体操等を継続することで、地域に天下茶屋ランチの認知が進み、些細な事でも気軽に相談してくれるようになった。今後も顔の見える関係作りを継続していく。 天下茶屋地域情報マップ作成にあたり、多くの天下茶屋地域関係者と意見交換ができた。天下茶屋地域の課題や「高齢者にとってやさしい地域」について考える機会となった。天下茶屋地域情報マップの作成を通じて、多くの地域関係者とネットワーク構築ができた。今後も定期的に地域関係者との交流会を開催していく。
今後の課題	地域の集いの場への参加者は圧倒的に女性が多い。男性は閉じこもりがちで地域とのつながり希薄な方が多い。今後は、当施設でも男性向けの地域活動を検討し、一人でも多くの男性高齢者が活躍できる場をつくりたい。当施設が天下茶屋地域における新たな集いの場となるよう取り組んでいきたい。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 24 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	高齢者の閉じこもり予防・孤立防止のツールとして、東部包括と協働で天下茶屋地域情報マップを作成し、多くの関係者とネットワーク構築を築けた。また、ふれあい喫茶での出張相談、いきいき百歳体操等でランチの周知が広がり、総合相談につながっている。生活保護ケースワーカーからの相談も増えており、包括とともに関係機関とのさらなる連携強化が期待される。

報告書作成日：令和元年 6 月 28 日

活動テーマ	地域に広がるゆるやかな見守りへ向けて ~居場所作りの拠点・顔の見える関係で繋がる~
地域ケア会議から見てきた課題	高齢化率、高齢者単独世帯率、生活保護受給率が高く、問題が深刻化してから発見されるようなケースが少なくない。地域からの孤立を防ぎ、支援が必要な高齢者に早期介入できるよう独自の仕組みやネットワークづくりを進めていく必要がある。
対象	山王・飛田の地域住民
地域特性	山王は昔ながらの町並みや近所付き合いが残る地域で、長年居住している住民も多い。飛田は外国人観光客も含めた多地域からの来訪者が増加してきている。一方で身寄りのない、地域との繋がりが希薄な単身高齢者、中でも生活保護を受給する男性高齢者が多い。
活動目標	居場所・交流の場から、お互いで見守っていく「インフォーマルでゆるやかな見守り・支えあう地域」としての意識を持った方が増えていくこと 気軽に相談できる開かれた窓口として、地域に根ざすランチという拠点・存在になること
活動内容 (具体的取組み)	山王地域「居場所づくり・地域の見守り拠点としてランチを知ってもらい、気軽に活用してもらおう」 「よりあい」 みんなでとりくめる物（様々なテーマ）を通じて交流できる場を目指す。今年度はちぎり絵、ゆびあみ講座（講師：ボランティア団体）、昔の映像上映会（社協・生活支援コーディネーターと共催）を実施。 「ふれあい喫茶みどり苑」 地域住民の交流・憩い・情報交換の場として定期的に開催。どちらもゆるやかに集い、気軽に足を運んでもらえる居場所として開放している。また、もう一方で「地域交流会」と題し、催し（イベント）を通じて地域交流を行っている。今年度は民謡と踊り、クラシックコンサートを企画し、地域住民の方々も多数来場された。11月には、「ふれあみどり苑」と題し、例年のバザーに加えNPO法人、ボランティア団体、地域ボランティア、東部包括による出店、地域住民にも加わってもらいご協力いただいた。 飛田地域「地域関係者と飛田の催し・行事や個別ケースを通じて顔の見える関係性へ」東部包括と経年度から飛田清掃活動、ふれあい喫茶へ継続的に参加しており、周知活動やチラシ配布等を行ってきた。今年度、以前から携わっていた個別ケースを通じて関係性形成されていた元役員から地域関係者へ紹介、繋がりができた。その後、子ども神輿へ声をかけていただき、東部包括・ランチで飛田地域の催しに参加。今後も、顔の見える関係としてスムーズな連携を図れるよう地域行事への参加を継続していく。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	山王地域：多彩な地域資源～地域ボランティアと繋がることができた。上記来場者、参加者や地域の百歳体操などで広報・周知を行い、楽しみにして下さっている方もおられる。参加者から地域の高齢者について相談があり、地域関係者を通じて介入に繋がった。 飛田地域：地域との関係が希薄だった個別ケースにおいて、近隣住民や町会長、地域関係者と連携し、顔の見える関係へ繋がった。また、介護保険サービスを利用しながら、インフォーマルな見守りの目、地域における協力体制が図れた。
今後の課題	個人にとって無理なく参加できるスタイルで居場所と感じられる拠点のひとつになるよう、地域にある他の身近な拠点（商店、郵便局、薬局、美容室等）や地域関係者との連携を図る。ゆるやかな集い、取組み、情報交換の場として、参加者同士の声かけやつながり、見守りの目へとしての意識にも発展させていきたい。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 24 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	以前より、清掃活動や地域の行事に積極的に参加し、ランチの周知活動を行っていることで、地域との関係性が希薄だった個別ケースについて地域関係者と連携、顔の見える関係に繋がった。また、いきいき百歳体操やふれあい喫茶という既存の場を活用し、ゆるやかに集い、気軽に足を運んでもらえる居場所づくりを提供している。

平成 30 年度 成南地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和元年7月2日

活動テーマ	高齢者の居場所作り
地域ケア会議から見てきた課題	独居高齢者の居場所がない。 認知症の方が多い。 独居の男性高齢者の行く場所がない。
対象	千本地域に住むすべての高齢者。
地域特性	独居高齢者が多い。認知症の方が多い。 文化住宅が多い。
活動目標	毎月千本地域にお住まいの方が参加できる行事を開催して、居場所作りを行う。
活動内容 (具体的取組み)	<p>【千本めぐみの会 いきいき百歳体操 千本の仲間と一緒に筋力アップ】 日時：毎月第1, 2, 4月曜日 13:30~14:30 場所：成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容：DVDを見ながら百歳体操を行う 対象：千本地域にお住いの65歳以上の方 目的：閉じこもり予防、住民の交流の場の提供、介護予防</p> <p>【めぐみ喫茶】 日時：毎月第3金曜日 13:00~14:30 場所：成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容：飲み物100円とおやつ50円の提供 対象：全ての高齢者 目的：住民の交流の場の提供、成南地域総合相談窓口の周知活動</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>毎月の百歳体操によって、参加高齢者が顔見知りになりお互い交流を持つようになった。また、百歳体操が地域の認知症男性高齢者の居場所となり閉じこもりが改善されたり、独居の方や健康に不安を抱える高齢者の安否確認の場となっている。</p> <p>毎月のめぐみ喫茶によって、高齢者の交流の場の提供となり地域の方々が待ち合わせて集うようになった。また、地域の認知症高齢者の居場所ともなり閉じこもりが改善されたり、地域で精神的に不安を抱えている方も気分転換に参加されてから地域の苦情を言わなくなった。</p>
今後の課題	<p>百歳体操は最大人数17名で会議室が一杯になるが収容力の限界に近づきつつある。今後どのような高齢者に広報していくか検討していく必要がでてきた。</p> <p>めぐみ喫茶は集客数27名で満席になるが百歳体操同様収容力の限界にきている。またスタッフ数が不足しており混雑時の13時から14時にどのように対応していくかが課題である。</p>
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7月 24日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	独居高齢者の居場所がない、軽度認知症の方が多いという地域課題から、閉じこもり予防や高齢者同士の交流を目的とした場を設け、地域の貴重な集いの場となっている。誰もが参加しやすい場として、男性同士の交流が見られるなど、地域に根付いた高齢者の居場所になっている。

平成 30 年度 梅南・橘 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 31 年 3 月 29 日

活動テーマ	地域関係者と専門職との協働取組みと仕組みづくり（つながりの場づくり） 「梅南うたごえくらぶ」
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域住民（関係者）と専門職のネットワークの構築（早期発見・早期支援）
対象	地域住民・地域関係者・生活支援コーディネーター・ボランティア・包括・ランチ
地域特性	地域活動が活発で長年住み慣れた住民間のつながりが強い一方、高層マンションの建設など生活環境の変化から町会未加入者もおおく、つながりの希薄の高齢者も少なくない。
活動目標	だれでも参加できる住民主体のつながりの場づくりを地域関係者と協働で作ることを積み重ね、ネットワークの構築を図る。
活動内容 (具体的取組み)	<p>（開催日）第一回目開催 H30/6/7 第二回目開催 ・H30/10/22・第三回目開催 H31/3/12 協働取組みのプロセス （初回打ち合わせ会議） 「だれでも参加できる音楽を通じた新たなつながりの場」について提案する。 H29 年度実施した生活ニーズ調査結果（介護予防につながる活動希望）が多かった事や 振り返り会議のまとめから、つながりの必要性を共有。つながりのある地域づくりを目指す。 （講師との打ち合わせ）スケジュール・チラシ・周知方法・アンケートなど役割分担 実施日（準備から全員で） （一回目開催の振り返りと評価会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの集約の報告。「参加者全員はよかった」「次回も参加する」</li> <li>・継続開催することの意向確認</li> <li>・さらなる拡大を目指し地域ネットワークを活用した周知方法を検討。</li> </ul> <p>町会回覧/老人クラブ/食事サービス委員会/ふれあい喫茶/介護予防教室周知。（NW 委員会から地域関係者で依頼）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師についても意見交換</li> </ul> <p>高校生や中学生のコラボ・ボランティアグループ・地域の活動グループ（専門職で調整） （二回目開催振り返りと評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係者の周知の成果で初めての参加者の方がみられ、相談窓口の周知ができた</li> <li>・総合相談から地域とのつながりがなかった人も参加できた。</li> <li>・参加者全員が「よかった」次回も楽しみ」と回答。</li> <li>・参加者リストのマップを作製。（つながりを見る化）</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>企画から実践、その成果と一緒に振り返り、評価するプロセスを繰り返すことで 高齢者が生活する地域を中心に、地域支援者と専門職が協働すること、地域住民が主体的 参画するつながる仕組み作りを形にすることができた。地域の GH や CM からの問い合わせ もあり参加者の拡大にもつながりが見えてきた。地域関係者がそれぞれの立場で積極的に活動い ただき、連合振興町会、老人クラブ、食事サービス委員会との連携へと広がり、 実りある協働の仕組みができた。 また、日々の相談にもつながり、相談窓口の機能の充実にもつながっている。</p>
今後の課題	
区 地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 24 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域住民の早期支援に繋がるように、だれでも参加できる音楽を通じた新たなつながりの場を提供。開催後にアンケートを実施し、反省を踏まえて次開催の参加者の拡大につながった。地域関係者と専門職との連携が、企画から実践、成果を振り返ることで新しい協働の仕組みを作ることができた。日々の相談にもつながり、相談窓口の機能の充実につながった点は高く評価できる。

平成 30 年度 南津守地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：令和 元年 7 月 3 日

活動テーマ	地域の高齢者が気兼ねなく集まれる居場所作り
地域ケア会議から見てきた課題	男性の独居者の地域参加があまりない 高齢者の集まれる場所が少ない。
対象	南津守地域住民
地域特性	北側には市営住宅、南側にはワンルームマンションが多く、独居や高齢世帯の方が多い。その反面、新たな住宅地が増えている事もあり、地域関係が希薄なところもある。
活動目標	地域住民と協同して、誰もが気兼ねなく参加できる居場所作り
活動内容 (具体的取組み)	<p>あゆみ工房(南津守3丁目の地域住民の方の持ち家を利用した活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌みずきの会 日時：第2金曜日 14:00～ 内容：講師の方を迎えて、童謡から歌謡曲まで楽しく歌を歌う</li> <li>・絵手紙の会 日時：第3水曜日 14:00～ 内容：地域の高齢者の方が先生となって下さり、葉書の中に自由に絵を描く</li> <li>・編み物の会 日時：第4水曜日 14:00～ 内容：持ち寄った毛糸などを使い、お互いに助け合いながら編み物を楽しんでもらう</li> <li>・囲碁・将棋・ポッチャ 日時：毎週水曜日+3 会開催時 14:00～ 内容：ポッチャは老若男女問わず、障がいのある方でも参加が出来るスポーツを通じて、交流を図る</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	当初は参加者が少ない日もあったが、参加された方が友人や知人の方に紹介して下さり、徐々にだが増えている。ここに来るのが楽しいと言う声も出てきている。また、町会や地域の福祉事業所にPRの面でチラシの配布や掲示の協力をしてもらっている。
今後の課題	男性の参加者がまだ少ないので、参加をしてもらえるような企画やPRの検討。 参加者が増えてきているので、運営をサポートしてもらえるような人の確保が必要。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 24 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域関係が希薄になっていることや男性独居者の地域参加があまりなく、高齢者の集まれる場所が少ない現状を考慮し、閉じこもり予防や高齢者同士の交流を目的とした場を設けており、地域の貴重な集いの場となっている。地域でのチラシの配布や掲示の協力を依頼し幅広い周知に努めている。

報告書作成日： 令和 元 年 5 月 31 日

活動テーマ	あいりん地区で 28 年度、徘徊により保護された高齢者が 20 名を超え、他市や府外で保護されているケースが多いことがわかった。そこで、遠くに行かれる前に、地域で何かできないか。住みやすい地域にするにはどうしたらよいか等、考察していく。
地域ケア会議から見てきた課題	平成 29 年度 第 1 回萩之茶屋地域ケア会議～徘徊から地域をみつめる～にて、西成区で徘徊され警察等に保護された方は、萩之茶屋地区が一番多いことがわかる。どのようにすれば徘徊しても大丈夫な街になるか参加者で考えたところ、たくさんの意見の中から萩之茶屋地区の清掃を毎日行っている特別清掃事業の方々に働きかけて、協力を得られないかとの案がでた。
対象	特別清掃事業に登録している労働者及びスタッフ
地域特性	あいりん地域は、単身男性高齢者の生活保護受給者や、低年金受給者が多い。その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理や支援、住環境が整っていない。また家族とのつながりや地域での人間関係は希薄で、アルコールやギャンブルに依存し、孤独な生活を送る人が多い。
活動目標	特別清掃事業に登録している労働者の方に、認知症について知ってもらう。認知症についての知識を生かし、地域の清掃中、徘徊している高齢者に声かけを行ってもらう。
活動内容 (具体的取り組み)	<p>地域清掃が終わる 14 時半から、賃金の受け渡しの 15 時までの間に特掃事務所内で認知症講座を行う。強制はせず、あくまで自由参加の形で開催する。</p> <p>認知症講座「知っておこう！認知症のこと」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマソング「あっぱれ！忘れん坊將軍の歌」を歌う</li> <li>2. いってみよう！認知症〇×クイズ</li> <li>3. 簡単な予防体操の実演</li> </ol> <p>特別清掃登録者は、生活保護を受けていない 55 歳以上の方が、障がいの手帳を持っている方で、現在約 1100 名。輪番制で 1 日の労働者は約 200 名でそのうち、30 名前後の方が参加してくれている。仕事終わりで疲れている参加者の負担にならないよう、わかりやすく、楽しく、気分よく参加してもらえよう、音と映像を組み合わせ、工夫をしている。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	5 月から翌年 3 月まで（6 月を除く）の計 10 回開催で延べ 335 人参加してもらえた。毎回の〇×問題をかえて、新しいことをすることで、リピーターの方達も増えてきている。また友人の相談や、ご自身の体調の相談など、新たなケースにも繋がっている。
今後の課題	当初は、徘徊する方への声かけの為の認知症講座と考えていた。しかし実際開催すると、参加者は、認知症に対して興味はあるが、よくわからないという方が多かった。まずは認知症の基本的なことを知ってもらい、徐々にレベルアップを図っていきたい。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（令和元年 7 月 24 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	特別清掃事業に登録している労働者及びスタッフを対象に、認知症に関する講座を開催した。毎回内容を変更してのクイズ形式や音と映像を組み合わせ、分かりやすく工夫を凝らした内容となっている。結果として、リピーターが増えたことや、友人や自身の体調の相談をするきっかけに繋がっている。